

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



令和の米騒動

落語歳時記シリーズ

文月（7月）の落語 「桃太郎」

昔の子どもは素直だった。枕元でお伽話を話してやると、おとなしく聞いてすぐに眠ってしまい「子どもなんて罪がないもんだ」と思ったものだ。

ところが今の子どもはそうはいかない。「昔々、ある所にお爺さんとお婆さんが・・・」と始めると、「昔々っていつのこと？年号は？ある所ってどこ？？お爺さんの名前は？」なんて「お爺さんは山へ柴刈りに、お婆さんは川へ洗濯に。桃が流れてきて、桃の中から生まれた桃太郎が犬と猿と雉を連れて、きび団子を持って鬼ヶ島に行って鬼退治した・・・」と話しても、子どもはすっかり馬鹿にして「眠くなるどころか目が冴えてきた」としらけた顔をする。

さて今度は子どもが父親に話を聞かせる。「昔々、ある所」って時代や場所を特定しないのは、いつでもどこでも誰にでも通じる話にするため。お爺さんお婆さんは、実は「父」と「母」で「父の恩は山よりも高く、母の恩は海よりも深し」ってこと、お供の動物も、犬は仁義に厚く、猿は智慧があって、雉は勇気がある。つまり「仁・智・勇」の三徳を備えた友達を持てって教え。

きび団子は美味しいものじゃなく、質素倹約を守り、厳しい世間の荒波に揉まれてよく働いてこと。そうすれば信用がつき、地位・名誉・財産という「宝物」を手に入る。そして「親に孝行し、家の名を上げてなお励め」っていう教えだ。子どもがこんな話を父親に聞かせると、父親はすやすやと眠ってしまった。子ども「今の大人なんて罪がないもんだ」



■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」落語の時間“蛙茶番”素人芝居噺

https://www.youtube.com/watch?v=f_k7AGjQ3gs

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「うなぎ」「とまと」とかけて

次回は2025年 **8月4日（月）** 「なす」「鬼」とかけて